学校法人 福島成蹊学園
福島成蹊中学校･高等学校
令和５年２月３日　NO.16
文責　高１副担　服部　義昌

一 貫 コ ー ス 通 信

家庭菜園を通して日本の農業・職を思う

昨年この通信にて、定年を見据えて家庭菜園を始めていることを書かせていただきました。その家庭菜園で思いのほかたくさん収穫できた時に、今までは近所や職場にお裾分けしてきましたが、4 月からは少し時間もできるので、小遣い稼ぎに JA 直売所やフリマで販売してみようかと思い始めました。その為、スーパーでの買い物の際、野菜の値段を気にかけて確認することが増えてきました。特に、旬の時期の値段や夕方遅い時間に値引きされた野菜の値段を見ると、消費者として安いに越したことはないけど、果たして農家は十分な利益を上げられているのだろうか疑問に思い始めました。例えばきゅうり、旬の時期には一本 30 円を切ります。生産、流通、販売の大きく三者で分けて、仮に生産者の農家に入る金額が 10 円とすると、一日に千本を出荷してやっと 1 万円の売り上げになります。一本収穫するのに仮に 10 秒とすれば約 3 時間かかることになります。規格外の曲がり胡瓜や育ちすぎの胡瓜も収穫しながらですから。そのあと規格にあったサイズの選定、箱詰めなどをして出荷となるとその作業時間はかなりのものと予想されます。そして、収穫するためには畑の準備、播種、育苗、ネットの設置、植え付け、弦の整枝など沢山の作業があります。それをこなしてみて一日一万、そこから資材代が引かれるかと思うとため息が出ます。（自分の家庭菜園だと良くて一日に数十本の収穫規模ですから、資材にかかる費用を考えると自分で作るより買って食べたほうが安いくらいです。あくまで趣味として楽しむために栽培するから成り立つものです。）

実際にはこの試算の通りでなく、平均的な農家の売り上げが 500 万、所得はおよそ半分という記事を見たことがあります。育て収穫する喜びは有りますが、きつい、汚い、厳しい（収入が少ない）が農業のイメージです。ですから、例えば一部の野球選手やサッカー選手ではあっても何億円もの収入がある職業と比べると、子供達や若者のあこがれ対象には選ばれにくく、現実に新規就農者が減少しています。また、農業を営んできた方も次第に離れていきます。他にも複合的な理由があってのことでしょうが、農業就業人口は 2000 年に 389 万人だったものが 2019 年には 168 万人と減少しています。しかも就業者の平均年齢は上昇し高齢化が進んでいます。このまま高齢化しつつ減り続けたら日本の食はどうなるのでしょうか？

また、現在（令和元年）の日本の食料自給率はカロリーベースで 38%です。米 97%、野菜 79%と高い数値を維持していますが、輸入品に頼る小麦は 16%、大豆ではわずか 7%です。小麦はパン、うどん、ラーメン、パスタの原料ですが、一時は輸出するほど生産できた、つまり自給率 100%を超えていた時期があったそうです。しかし、日本の気象条件より適する地域で大量生産され、安くて品質の良いものが海外から入ることになって減少したそうです。また、大豆も国内でほぼ賄えていた時期もあったそうですが、天候に左右される作物のため収入が安定しないことや、労働時間が長く生産コストがかかることから敬遠されて

今に至っているそうです。もし、この輸入が国の駆け引きの中でストップしたら日本はどうなるのでしょうか？ 自由貿易体制とはいえ、現実に食料の囲い込みが行われ、輸出規制をかけている国が出現しています。あるいは鶏肉では、「中国はもっと高く買ってくれる。買い負ける日本。」などの記事がありました。現在、世界人口 80 億が 2050 年には 97 億になる予想がなされています。食糧危機が心配される中、輸入が止まる事はあながち幻ではないようです。

話がどんどん飛躍してしまいました。ネットから様々な知識が入ってくるなかで、日本の農業や食を憂えるばかりで解決策を提案することはできません。無責任な問題提起で終わってしまいます。ただ、男性の平均健康寿命が 70 歳と言われ、そこまで 10 年の間、健康に不安があるものの元気で体が動いたら、家庭菜園を通して自分で食べるものぐらいは作ってわずかな貢献をしたいと考えています。また、農業は脳業とも言われ、おいしく品質の良い野菜を作るためには様々な創意工夫が求められます。私も手掛けている有機栽培と無農薬にこだわれば尚一層それらが必要になります。そして天気・天候に関する情報を収集し読む力も求められます。脳を活性化させる趣味としてはうってつけです。端的には老化、ボケ防止を兼ねて、これからも家庭菜園を楽しみたいと思います。